

軽自動車の2WD リヤハブベアリング整備作業時の注意事項について

2WDの車両において、定期点検または車検等にて整備が実施された車両において、リヤハブナットが規定トルクをオーバーして締付けられていた事例がありました。

リヤハブナットの締付けトルクを規定値以上で締付けると、スペーサを変形させてしまいベアリングに過大な与圧がかかり、異音発生の原因となりますので、定期点検、車検等の整備作業における注意事項についてお知らせします。

■対象型式

H40系、H81W、H82W、H82A

■整備作業時の注意事項

(1) リヤハブナットを外し整備作業する場合

- ・ハブナットの締付けは、整備解説書どおりの締付け方法の遵守をお願いします。
- ・2WDと4WDのリヤハブナット締付けトルクは異なります。また、フロントとリヤのハブナット締付けトルクも異なりますので作業時はご注意願います。
- ・セルフロックタイプ及びH40系、H82A、H82W、H92Wに使用の割ピンタイプB(摩擦係数安定剤付、締付けトルク:144~176N・m)のナットは、再使用不可部品のため、新品を使用願います。

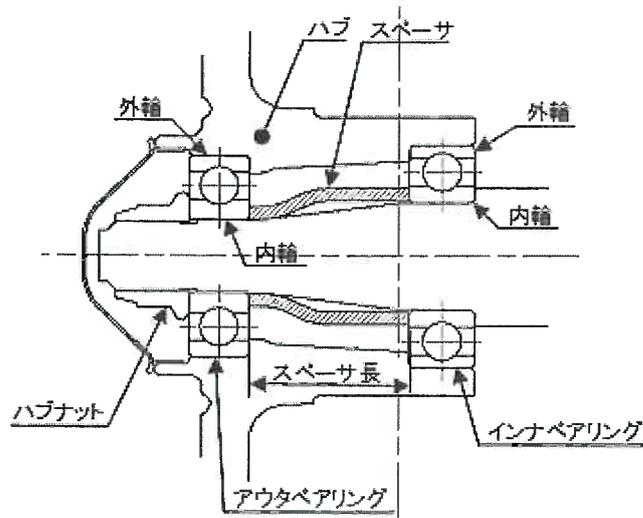
(2) リヤハブベアリングから異音が発生した場合

- ・リヤハブベアリングインナ、アウトに起因した異音が発生した場合、ベアリングだけでなくスペーサも同時に交換願います。

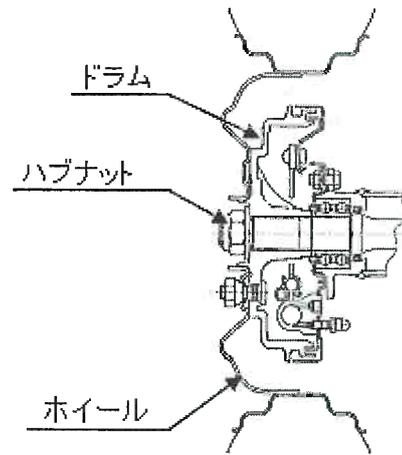
■ハブナットを過大トルクで締付けた場合のベアリング損傷に至るメカニズム

ハブナットを過大トルクで締付けた場合、アウトベアリング内輪より過大入力スペーサに付加されるため、スペーサが変形(長さ短縮)すると共に、ハブを介しインナベアリング外輪に入力が付加されます。

スペーサ短縮により、ハブを介してのインナベアリング外輪を押す力が増大するため、アウトベアリング、インナベアリングにおいて内輪と外輪間にズレが発生し、その状態で走行を継続することにより、ボール転動面が損傷し異音が発生します。



2WD リヤの断面図



4WD リヤの断面図

対象車種	H40 系 ミニカ、トップ BJ	H81W eK ワゴン	H82A トップ	H82W eK ワゴン
2WD リヤハブナット 締付けトルク(N・m)	84±14(セルフロックタイプ)			
4WD リヤハブナット 締付けトルク(N・m)	255±30(セルフロックタイプ) 221±63(割ピンタイプ A) 144~176(割ピンタイプ B)	255±30 (セルフロックタイプ)	144~176(割ピンタイプ B)	

なお、H40 系の割ピンタイプ B は、車台番号 H47V-1304237 より採用済です。